

＊
ときの話題

コロナ禍の小中学校

アーベルの会
(子どもの発達と
不登校を考える会)
代表 西伸之

はじめに

2月27日夕方に突然出された「3月2日からの一斉休校要請」以後、すべての学校が混乱の中にあります。私はこの3月まで中学校に勤務していましたが、かつての同僚や「アーベルの会」参加の保護者から聞いている小中学校の先生と子どもたちの様子を報告します。

疲弊する先生たち

「突然の休校要請」以来、次々にトツプダウンで降りてくる「新型コロナウイルス対策」の指示に、小中学校は振り回される日々です。卒業式・入学式や、修学旅行・体育祭・文化祭（合唱発表会）などの学校行事の修正につぐ修正。部活動の停止や制限。運動部の大会や文化部のコンクールの中止・縮小。「全員前を向いて無言で食べる」給食や「密にならず大声を出さない」休み時間の遊びの徹底。理科の実験や音楽の合唱・体育の授業などでの禁止や

制限事項。授業中の発言やグループ学習のやり方の見直し。放課後の教室やトイレ・洗面所等の消毒…。先生たちの疲弊は限界に達しています。

また、休校中の学習習慣と学力保障のために、課題を作成し、点検・採点・評価するのは、先生たちにとって大きな負担増でした。許されることではありませんが、「県内の小学校の先生が、提出された子どもたちの課題を燃えるゴミに出し処分された事件」は、追いつめられた先生たちの悲鳴が聞こえてくるような出来事でした。

学校が楽しい場所できなくなっている

「声を出さない応援練習をしているよ」そんな笑い話のような話もあります。楽しみにしていた修学旅行や運動会・体育祭などの中止や縮小、度重なる内容の変更、生きがいだった部活動の停止や大会の中止、日常の遊びの制限などが、どれだけ子どもたちを不安にさせ心を傷つけていることでしょうか。そのうえ、長期休業による「学習の遅れ回復」の要請で、授業だけはつぶれず連日実施されます。

学校は今、子どもたちにとって楽しい場所ではなく、学習の遅れを取り戻すための授業最優先の場所になっています。夏休みの削減や楽しい行事中止や縮小、山のように出される課題で、

「子どもたちから笑顔がなくなった」と感じている先生が大勢います。NPO法人『共育の杜』が教員1203人に調査したところ、「疲れている子が増えている」には87%、「今後いじめが増える」には89%、「不登校が増える」には78%の教員が「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えています。

子どもたちの声に耳を傾け

子どもたちとの信頼関係を！

さらに「コロナ差別」が追い打ちをかけます。コロナ感染者や家族、医療従事者、感染者が出た大学や店・会社を誹謗中傷するニュースを目にするたび、不安でいっぱいの子どもたちは何を感じどんな価値観を育てるのだろうかと思うと、いてもたってもいられません。

子どもたちが、楽しみを奪われ、学習に追い立てられ、先の見通しが立たない不安の中にいる今だからこそ、先生や親がその気持ちを受け止め支え、一緒に考えることで、よりよい信頼関係が築けるはずです。そのためにも、子どもたちの声に耳を傾けるゆとりを先生たちが持てるよう、教員の負担を減らす取り組みは喫緊の課題です。一番は教員増による30人以下学級の実現でしょう。力を合わせ、できることをやっていきたいと思います。

一斉休校 小瀬子どもクラブでは



小瀬子どもクラブ
指導員
高橋 小夜子

3月、全国一斉に突然学校が休校になりました。感染の拡大がまださほどでなかった新潟では正直「エッ〜」って耳を疑いました。そんな中、小瀬子どもクラブも新潟市の休校に伴い3月3日（火）より丸一日の学童クラブ体制になりました。

小瀬子どもクラブは、主にすぐ近くの小瀬小学校の子ども達の放課後支援をする、保護者の願いからできた学童保育です。

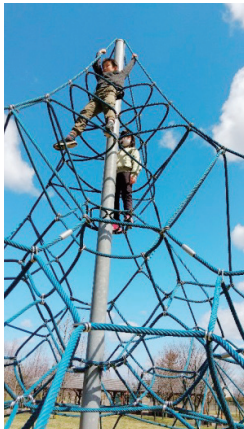
構成員25人のうち1年を中心に当初6名が通所しました。3週目の後半あたりからは2年生も増え10人に。4週目に入ると春休みの時間にもなったため12名になっていました。

増えた理由は「祖母が子どもをみていての過労」、「中学生の姉姉と過ごさせたが限界」、「家にいたらゲーム漬け」等でした。

子ども達は、学校からのプリントは終えてさかんに「ひくま」を連発したり、低学年はプリント学習に興味を持ってなくて、遊んでしまったりしていました。調理活動、遠くへの散歩、西川での魚釣りなど、活動は可能な範囲でいろいろ工夫しました。

「子ども達は集団の中で仲間と交わり、学習や遊びでも自分の思いを伝えあいながら学習していく」この休校は、学校の大切さをあらためて教えてくれました。

感染には細心の注意を払いながらも、子どもの発達の大切な時を奪うことなく学校が開かれていくことを切に願います。お家の方、子ども達（自粛して在宅だった子ども）、本当によく頑張りました。



遊具で元気に遊ぶ
みずき野中央公園にて

シリーズ 地域とつながる高齢者



地域密着「イサービス
えん」で管理者
井口 真紀

第2回 子どもは可愛いわね！ 笑顔、こぼれる高齢者

昨年度、えんでこでは近隣の小学生に自由に出入りをしてもらっていました。学校が休みの日には、お弁当を持参し一日過ごしていく子供たちもいました。夏休みには「小学生メイト」と銘打って小学生ボランティアを募集。総勢15名が参加し、主に掃除や高齢者と一緒に活動をしてもらいました。

学校の授業としての交流ではなく、自然に地域のいろいろな世代の人が交流できる「場」をえんでこが担えたらいいなあと思っています。

子供たちへのお約束の一つに、来所時と帰宅時には必ずホールに来て、元気な声で挨拶をすることをお願いしていました。多くの高齢者は、子供たちの顔、声に反応

し笑顔になります。時には「うるさい！」と怒られている子もいましたが、それも自然で微笑ましい光景でした。カラオケ室で子供たちの歌に聞き入る人やボードゲームを一緒にする人たち、将棋を教える人もいました。高齢者にとっては、子供にまだまだ教えることができる体験。子供にとっては、高齢者のゆっくりなペースやちょっとした間違いに合わせる体験など。お互いを思いやる心を育むことができると思います。

「まだですかあ？」と子供たちが玄関に来てくれることがあります。コロナ感染予防のため、外部者の出入りをお断りして半年以上が過ぎました。早くコロナが収束して、また元気な子供たちの声がいんでこで響く日を心待ちにしています。



子どもたちとパン作りを楽しむ高齢者



焼きリンゴのケーキ (21cm 丸型)

新中浜・稲越京子

◎材料

- リンゴ …… 1と1/3個
- レモン …… 1/2個
- レーズン…大さじ1/2

- A { 小麦粉…130g
ベーキングパウダー…小さじ1と1/3
塩 ……少々

- B { バター ……75g
砂糖 ……50g
卵 …… 2個
- ◎ { 粉砂糖
シナモンパウダー
各適宜

○ 作り方

- ①リンゴは縦6つ割りにして皮と芯を取り、縦に細かく包丁目を入れレモン汁を振る。残りのレモン汁にレーズンを浸す。
- ②Aを合わせてふるう。
- ③Bのバターをクリーム状に練り、砂糖・卵を少しずつ数回に分けてよく練りポツリと仕上げたら②の粉をサックリ混ぜ牛乳を合わせる。
- ④型にバターを塗って小麦粉を振り余分な粉をはたく。③の生地を型の内側にはり、②のリンゴを形よく並べてレーズンを散らす。
- ⑤オーブンを180℃に熱し、④を入れて40分~50分焼く。竹串をさしてみても何もついてこなければ出来上がり。冷まして型からはずし、◎を合わせて振る。

※生地は冷凍のパイシートを使っても良いです。秋は果物が美味しくなります。甘酸っぱいリンゴは秋の豊饒さを感じさせます。イチジクや梨など、お好みの果物を使ったバージョンはいかがでしょう。

地域の話題コーナー

秋の上堰潟散策

秋晴れの日、夕映えの会と健康友の会の共催で出かけました。さわやかな風と角田山の緑を眺めてスッキリ。

「また来ようね!」という声がたくさん聞かれる楽しい散策でした。



(上地道子通信員)

新川風物詩 秋のハゼ釣り

「青鉄」裏界隈が私のハゼ釣りのホームグラウンドである。新川を横断する赤い西川水路橋から静田神社脇にかかる大萩橋まで、若い時から通い詰めている。

ハゼは8月末頃から産卵のため新川に上がり始める。9月ともなると、旧116号線榎尾大橋に釣り人が立ち始める。「農林省」跡に保育専門学校ができた頃は、寂しい川岸であった。わとわ団地が造成されスーパーが専門学校跡にできて風景や音が変わった。わとわ団地の「新川さくら公園」から遊具のギーギーという音や子どもたちの遊ぶ声が聞こえる。

今年のハゼは、いたって小ぶりである。(M通信員)



「青鉄」裏の「農林省橋」は、わとわ団地への近道

団体さん のらっしゅ〜ん

表具倶楽部 月曜会



書や日本画を引き立たせる表装は陰の立役者

西地区公民館で活動している表具クラブです。工事の間、赤塚公民館をお借りしています。仲村茂先生の教室ならと遠方から部員たちが集まって来たと聞いています。往時は25人以上も部員がいたので3交代で教室が開かれたとか。もう30年以上続いています。

ここで習う表装は今の流行の「おしゃれ表装」ではなく「仏表装」などの古典的表装です。紙表装から入門して布地を使った「仏表装」ができて一人前。ノリで裏打ちを重ね乾かして次の例会にというパターンです。自分の作品が次第に形作られていく様子に一喜一憂、時の経つのも忘れてしまうほど。表装は3年で修了、というのが先生の教え。その後はOB会に移って修行という習わしですが、「留年」も多かったとか…。現在は9名、和気あいあい楽しんでいきます。

(代表・知野)

コロナ禍の暮らし 親の思い、子の思い…

新型コロナウイルス対策に翻弄された感の学校です。でも子どもたちは未来に育つもの。今こそ地域と家庭でしっかりと支えましょう！親と子どもの本音のホンネを拾いました。

「コロナが怖い」と休校中は自宅から出る事を極端に嫌がるようになった娘。唯一安心して遊びに行ける場所は私の実家だけでした。コロナは娘の心にどんな影響を与えたのか、心配です。

入学式はなく、授業も部活やサークルの勧誘も全てオンライン。未だに大学生になった実感がわからない。早く対面授業を受けたい。大学行かないのに、少し疲れちゃった。

休校中、子供たちが夕飯を作って待っていてくれました。「コロナのせい」と嫌なことが多い中、「コロナのおかげ」で子供たちから幸せをいただきました。

インドア派の子なので家庭でのひきこもりの影響もなかった。でもさすがに夏休み短縮が納得いかない様子で、受け入れるのに時間がかかったよう。子どもの言い分もわかりますね。



高齢者とシヤガイモ収穫 ゆうばえ農園で

学校に行けない時期は親も子どもも不安でいっぱいでした。でも通常通り通えるようになり、当たり前だった事のありがたさを日々感じています。

休校前日、団結力のある4年1組の学級で信頼する先生、仲間と突然の別れで涙する子。この日を忘れず人とのつながりを大切にしてほしい。

Information

新聞 ゆうばえ 通信員大募集


地域のとおき情報をお知らせください。
 大好きな町の風景や写真
 耳より情報
 季節外れのお花が咲いたとか
 楽しい情報をお寄せくださる方

編集責任者：高橋 実
 電話：025-264-5000 ゆうえい会
 メール：takahashi_m@niigata-min.or.jp

**健康相談会 明寿会・健康友の会共催
 コロナ禍でのフレイル予防**

10月7日、平和台自治会館で健康チェックを実施。その後、包括支援センター赤塚の講師によるミニ講演が行われました。

コロナで生活が制限される中で、放っておくとフレイル（虚弱）になって生活に支障をきたすこともあるとか。運動はもとより、サークル活動などで人とふれあうことが一番というお話にガッテンしました。
 (藤沢道子通信員)



連絡先一覧

ゆうえい会配食事業部
☎ 070-4453-5228
 (担当:小島明日枝)

夕映えの会生活支援
☎ 070-4314-3980
 (担当:神立秀明)

編集後記

「校内放送や楽しそうな声が聞こえる。学校へ行きたい、でも行けない」。小春日和の穏やかな秋の日、自室から抜け出し、屋根の上に座って学校の方角を見ている娘がいました。学校に行けなくなった娘を目の当たりにして当惑し、大変心配しました。わらをもつかむ思いでアーベルの会に駆け込みました。どうやったら学校へ行かせるかではなく、学校へ行けない子をどうやって見守るかを西先生から教えていただきました。今号は「コロナと子ども」を特集しました。いかがでしたでしょうか？「子どもは未来に育つ」、こんなことを共有できたらと思います。今は首都圏で暮らす娘から「たまには新潟に帰りたくなったよ」とライン。親も子も育ち合わないと思いつつ、父はニンマリします。
 (M記)